



ひるば

vol. 98

川柳

「人生」

人生は ボケていささか 楽になる
 人生の 老いにも容赦 ない登り
 終着点 わからぬ人生 また楽し
 典範で 保護人生に 気ままなし
 君恋し 共に過ごせし 人生を
 人生は 似た物同志で 納まりぬ
 俳優は 人生をかけて 演技する
 人生は 夢で始まり 夢で終わる
 人生は 生きて何ぼの 此岸かな
 人生の 先わからずとも その先へ
 振り返る 人生はただ 風の中
 読者より
 暗香や 憶い出れる 夜の梅

自転車を こぐ脚はずむ 春隣

政子

三月の行事予定

三日(水) 一四時 まどかグループ
 四日(木) 一四時 川柳「転ぶ」
 八日(月) 一四時 押し花
 九日(火) 一四時 介護教室
 一三日(土) 一四時 お雑茶会
 一五日(日) 九時 写真クラブ
 一六日(火) 一四時 お花
 二〇日(土) 一五時 親睦会
 二二日(日) 午前 散髪
 二三日(火) 一一時 食事会
 二六日(金) 九時五〇分 買い物

あたまの体操 解答！

漢字読みクイズ (難易度☆☆☆)

一、あじ 二、あゆ 三、いわし
 四、うなぎ 五、たら 六、かつお
 七、くじら 八、こい 九、さば
 十、たい 十一、ふな 十二、まぐろ
 十三、うろこ 十四、ひらめ 十五、あわび
 十六、ます 十七、なまず 十八、あさり
 十九、かずのこ 二十、するめ

(出題 賽銭Q)

さあ 何問読めたでしょうか？

ひととき

施設長 中島 聖恵

『ホッコー、ホッコー、本物の森作り』(その三)

良友会の植樹祭というのは、どのように行なわれるのでしょうか。二月の初め、瀬戸内市の或る会社が宮脇先生のご指導の元に植樹祭を催されるのに参加させていただきました。汚れても良い服装で参加の事。二月初旬の冷たい季節、野外での作業はさぞ寒い事と、タンスの中をひっくり返しながら、何とか服装を整えました。登山用の肌着にトックリセーター二枚を重ね、背中にホッカイロを貼り付け、更に登山用のウールのシャツを着て最後に綿のジャンパーを着込む。髪の毛の帽子を被って準備OK！私なりの完全武装で臨みました。

道中雪がちらつき、寒さのほどが思いやられます。会場に着くと、受付で軍手とホッカイロが配られ、七番のプラカードに並びました。続々参加者が貸し切りバスで到着です。植えるところは、会社の周囲で、四十五センチほどホッコーと土が盛られています。巾一メートルもあれば十分森作りが出来るのです。いよいよ植樹祭が始まりました。リーダーは会社の若い女性の職員さんたち。一グループに三人のリーダーが付いて、そのリーダーの指導の元に植えていきます。まず、ポット苗が並べられた籠を二人で持ち上げ、水をはった水槽に黒いビニールのポットが被るぐらい水につけてから、ビニールポットをはずし、移植ごてで十センチほど穴を掘り、しっか

ロータス桑野 展望色々



りと根が付いた苗木を浮かすようにして、その穴に入れて周囲に土をかぶせます。狭い場所であっても高木、亜高木、そして裾を色取る低木と、混植、密植の自然の掟をきちんと守り丁寧に植えていくのです。植え終わると、最後は苗木の脇に藁を敷き詰め、藁が飛ばないように縄をかけて出来上がりです。当日用意された苗木は三十八種類、二千十本。百人余りのメンバーが一生懸命に夢中で植えましたので、二時間という短い時間で終了しました。皆で植えたばかりのか弱く見える苗木も、二年経つと管理がいらぬ自然のシステムに従った本物の森へと育っていく事でしょう。

「木を植えるということは、心に木を植えること、未来を植えること、命を植えることだ。全ての人の命と心とDNAを守る、ふるさとの木による本物のふるさととの森作りを目指して、足元から木を植えていくこと」宮脇先生は常に熱っぽく語られます。私にとって植樹は初めての経験でした。生物の世界、命あるものと向き合うということは、いい加減は許されない。僅かな油断も誤魔化しも通用しない厳しい世界であること、常に本気で向き合うことの意味を、宮脇先生の植樹に向き合われるお姿を通して、先生のフィロソフィーの一端を、実感させていただいた貴重な一日でした。土に触れ、生きていく苗木を植えてさせていただいている尊さ、そして皆で協力しながら一つの目的に向って作業する楽しさと喜び、終わった後の爽快感は何物にも代えがたい宝物を頂いた思い出でした。

